

第 5 回 魚沼市小中学校の教育環境の在り方検討委員会 議事録				
会 議 日 程	令和 7 年 5 月 21 日		午後 7 時 00 分 開会	
	令和 7 年 5 月 21 日		午後 8 時 40 分 閉会	
場 所	本庁舎3階 議会会議室		書 記	井口 啓一
出 席 委 員	委 員 長	雲 尾 周	委 員	尾 山 寿 一
	委 員	谷 脇 祥 子	委 員	佐 藤 志 緒 美
	委 員	青 山 直 樹	委 員	佐 藤 隼 人
	委 員	荒 井 安 代	委 員	櫻 井 裕 介
	委 員	土 田 知 美	委 員	佐 藤 玲 子
	委 員	佐 藤 玲 子	委 員	大 関 み どり
欠 席 委 員	副 委 員 長	栃 倉 敦	委 員	上 村 学
	委 員	内 田 美 保	委 員	梅 田 愛 子
事 務 局	教 育 長	樋 口 健 一	事 務 局 長	大 塚 宣 男
	学校教育課長	岡 部 忍	管理指導主事	五 十 嵐 哲 也
	管理指導主事	米 山 智	教育センター次長	須 佐 光 行
	学 事 係 長	高 橋 智 也	庶 務 係 長	森 山 玲 子

会議事項及び議事の経過

日程第1 開会宣言

(事 務 局) これより第5回魚沼市小中学校の教育環境の在り方検討委員会を開催させていただきます。よろしくお願いいたします。

日程第2 教育長挨拶

(教 育 長) (あいさつ)

日程第3 委員長挨拶

(委 員 長) (あいさつ)

日程第4 議事

(1)魚沼市における小学校の適正規模について

(委 員 長) それでは4の議事に入らせていただきます。(1)魚沼市における小学校の適正規模につきまして事務局から説明をお願いします。

(事 務 局) 説明させていただきます。
(当日配付資料により説明)
1 私たちが考える適正規模は?～小学校～

(委 員 長) では魚沼市小学校の規模について本日の議題、議事につきましてご意見いただければと思います。いかがでございましょうか。

(委 員) 前回2月に中学校について検討しましたが、私が想定していたよりかなり厳しい数字で、中学校1校という話になったところです。小学校について、中学校と同じように学校が少なくなるとどうしても移動距離・通学距離が延びることが前回出ました。小学生については、今回の検討をするにおいて、どれぐらい小学生がその通学距離を耐えられるのかということと、8校ある小学校を絞ってしまうと、メリットデメリットがどうしても存在するので、どのように妥協や線引をしていくのか難しいと思います。

それと、今年この話が決まってこの後、市民の方に話をどうするのでしょうか。学校を新しく作るとなった場合に私のふるさとでは、新しい小学校を作るときに実際8年かかっています。そういった目線で見ると、今日この話は決まったとしても、10年後の目線で話を進めてしまうと、また子供の数が減っていつてしまうので、どこまでその先を見据えてこの話を持っていくかということが非常に難しいと思います。

(教 育 長) 通学距離は、確かに小学生と中学生では体力面でも大きく違ってくると思いますので、小学校は中学校と同じように1校というのは、体力的に難しいと思っています。ですから幾つぐらいでということは今ここでは言えないのですが、魚沼市はかなり広いので複数作ったとしても、距離の遠い子は当然出てくるというところです。

前回の話でもありましたスクールバスのことも、バスを回せばいいということではありません。そのバスも乗ってる時間がどれぐらいで、数少ないバスで回るとなると、始発の子と終点の子とでは、かなりの時間の差があることになるので、難しいと思っております。

また(学校数を)絞った場合のメリット・デメリットは、どの程度に絞るのか、全然絞らないのかということでも変わってきますので、そこを皆さん方からご意見をいただきたいと考えております。

学校を作ることも財政面もありますので、10年後、20年後にしようということも難しい話なのですが、子供はどんどん減っていきます。

中学校のときもお話ししましたが、人数が多少減っても学級数が維持できれば、校舎の規模的には同じものが使えるのではないかと思っておりますので、そこも考えていかなければいけないと思っています。

皆さんからまた今日ご意見をいろいろいただきたいと思います。

(委 員) 今お話が出た中で中学校のときは、例えば体育祭等で競うようなときはクラスが多い方がいいという話をさせてもらいました。小学校だと通学の体力もそうですし、実際問題、保護者による送迎という話が出てくると思います。できることであれば、今のままの規模を維持したいと思っていたのですが、今この資料を見ると、複式学級が発生してしまう規模にまでなってしまうと厳しいのではないかと思います。勉強も厳しいのではないかと思います。

新しいところというよりは市の財政を考えていくと、統合の方が現実的だと思います。ですので、須原と広神西、伊米ヶ崎と小出、宇賀地と堀之内、この辺はもしかしたら考えなければいけないかと思います。

ただ、スポーツや勉強等で競争の意識が子供たちに出くるのは中学生からなのであれば、小学生の間は地域への思いを育んでももらったり、少人数で先生に見てもらったり等、できる限り今の規模を維持できる方がいいのではないのではないかと思います。

(委 員 長) ありがとうございます。いいかがでしょうか。

(教 育 長) 1学年が単独で学級が維持できず複数の学年が1つの学級になってしまうという複式学級は避けた方がいいというご意見かと思いました。

ただ文科の手引き等で示されているような学級編制ができる各学年2クラスにはあまりこだわらずに、単学級でもいいから今の規模で複式学級は何とか避けたほうがいいのかというご意見と承りました。

(委 員) 広神東小なのですが、(単学級は)トラブルが出たのときの逃げ場がないという話もありましたが、子供たちを見る限りは、あまり引きずっていない様ですし、今の状況を見ても単学級でもこの人数でいけるのであれば、そんなに不具合が出ていないのではないかなと思っています。単学級に関しては大丈夫だと思いますが複式学級になると、授業の進行度で大分差が出てくるのではないかなと思うので、PTAや保護者の方々の意見もあると思うのですが、単学級で収めればその方がいいのではないかと思います。

(教 育 長) 国の手引き等では各学年に2クラスは最低あるといいと示してありますが、魚沼市の状況を考えたときには、複式は何とか避けたいけれど単学級はいいのではないかなというご意見があります。

その辺、ご意見をぜひお聞きしたいと思います。

(委 員) 宇賀地小学校はしばらく複式学級を経験してまして、今年度、5年と6年が複式学級になっています。昨年度までは3年4年で複式学級だったというところで、3月に学校で校長を交えて保護者会を開きました。保護者の方からすれば複式の不安というのはやはりあるかと思います。宇賀地小学校が複式を導入したときは少し齟齬あったり等、なかなかうまく進まない部分もありましたが、そうしたものを踏まえて、校長が丁寧な説明をして今年度は綺麗にスタートしていると私はとらえております。保護者の理解をいただいてスムーズに回っていると思っております。

(委 員) 保護者も1人2人の方は、改めて校長先生に聞いたりということはありませんが、思ったほど複式についての抵抗はなく、1度説明すればスムーズに行くのではと思っています。

脱線する話で申し訳ないのですが、私は先週末北海道の北部の方に行ってきました。東京から長岡までの北の路線があるのですが、その沿線人口が4000人未満でして、小学校も1つあるのかないのかというところばかりです。

そういうところが北海道には至るところにあります。だから複式は当然当たり前のようにあると思いますし、小学生もいれば、当然学校は維持しなくてはならないので、あまり大きな数字にこだわらずに、適正な規模、もちろん複式も含めた中で学校の在り方は検討していいのではないかなと思っています。

(委 員 長) ありがとうございます。その他いかがでございましょう。

(委 員) 小学校長の代表として来ております。

今ほど複式の話が出ましたが、宇賀地小学校は2学級が1つのクラスになる複式だったので、6学級以下補助の講師が見つかる場合には、1人加配されますので、国語算数の学習については、人数は少ないのですが単学級ごとで授業ができます。そういった場合には、教員も何とか対応できるのですが、今後、伊米ヶ崎小学校のように、学校内に2つ複式ができるとなると、6学級以下の講師が1人しか配置されない中で、どうやりくりするか現実的に国語算数でも場当たりをするような授業をしなければならなくなるかもしれません。

実際に複式の授業を経験したことのある教諭というのが、どれだけいるかということもあります。

本来複式がずっと続いていた地域では、その複式の指導について教員も僻地校の研修を積んでおりますが、実際に複式を経験してみないと指導方法というのは非常に難しく、頭を抱えるところではあります。

そうやって学級づくりもしていくとなると、子供たちにどのくらい力をつけてさせてあげられるのかというところで、難しさを感じる教員が出てくると思います。

(委 員 長) ありがとうございます。ご意見はいかがでしょうか。お願いします。

(委 員) 伊米ヶ崎小学校の保護者ですが、もう5年後にこのような状態になるということで、すごく厳しい数字を目の当たりにして驚いています。

今お話があったように、やはり先生方の経験がないと厳しいのではないかなという面もあります。

でも伊米ヶ崎は、少ないながらも細々とやってきました。そして伊米ヶ崎は地域の愛が強い。その点を十分に配慮して事前に何度も説明をしていかないと、やはり首を縦には振らないような状況にあると思います。

きっと小出小学校との統合になると思うのですが、多い人数に次の年から入れられて、その辺のケア等もきちんとしていかないと、子供も不安になるのではないかと思います。そういった点も考えながら進めていただければと思います。でも少ないながらも今まで細々とやってきました。伊米ヶ崎共和国というコミュニティがあるようにすごく強い地域です。その方々たちや保護者の方にもきちんと説明をしないと、やはり納得がいかないような状況なのかなと思います。

(委 員) 複式の話がまた続きますが、宇賀地で少し問題になったのは、4年5年と複式にならないのかという話です。6年というのはちょうど卒業の年なので、今まで3年4年が複式だったのに、今度なぜ5年6年なのだと。なぜ4年5年ではないのかという問題を校長が丁寧に説明をしていました。教え方というのが1・2年が1つ、3年4年が1つ、5年6年が1つという話をしていたので、伊米ヶ崎が、2・3年が複式になるというよりは、1・2年と3年4年と5年6年はワンセットなのだと思いますので、そこは少し見方がちょっと変わると思います。

(事 務 局) 令和13年度を見て考えていただくと、まず、須原小学校が、2・3年で複式、4・5年で複式ができることになります。次に、伊米ヶ崎小学校が、3・4年で複式になります。そして、宇賀地小学校が2・3年で複式になります。

宇賀地小学校は、令和7年度、1年、2年、3年、4年、5・6年、特別支援学級1の6学級ですので、一般配当定数が6人となります。

しかし、6学級の場合には、小学校6学級校級外職員未配置校対応非常勤講師が1人配当されます。1日6時間勤務の非常勤講師が入り、5年生と6年生の授業を分けています。

(事務局) 伊米ヶ崎小学校は、令和12年度、1年、2・3年、4年、5・6年の4学級と、現在の特別支援学級2学級が維持されれば、6学級となり、さきほどの非常勤講師が1人配当されます。2つの複式学級に対して1人しか配当されませんので、如何ともしがたいことになります。

須原小学校も特別支援学級が2学級ありますので、令和13年度に伊米ヶ崎小学校と同じように6学級となり、非常勤講師1名が配当されます。須原小学校は、令和17年度、5学級と特別支援学級2つで計7学級あるため、級外職員が一般配当で1人つきます。

現在、教務主任をしておりますが、この教務主任をどう使うかは、学校の裁量となります。極端なことを言うと、この8人目を3・4年の複式学級のどちらか学級担任にすると、6学年と特別支援学級2で、担任は全員できます。ただし、教務主任が学級担任と兼務しなければいけません。

宇賀地小学校は、現在、1年担任が教務主任を兼任していますので、弾力的な運用もできないわけではありません。子供たちの学習指導にとって大丈夫かもしれないが、学校全体のことを考えなければいけないときに厳しい面もあるのも事実です。

小学校では、6学級と7学級では、教員が1人増えるかどうかの境目なのです。7学級だと教諭が8人配当されます。6学級だと6人しか配当されず、フルタイムではない非常勤講師が1人配当されるということになっています。

特別支援学級もずっと2学級あるとは限りません。県は1人在籍の特別支援学級というのは基本的に認めない方向で動いています。そのため、2年前にある学校は1つ学級減を起こしています。必ずしも今ある特別支援学級が永久的に2つとか3つとか続くとは限りません。減ってしまう可能性もあります。

(委員長) ありがとうございました。

(事務局) 複式学級というのは、必ずしも2・3年生等、学年が固定しているわけではなく、あくまで連続する学年ですということですね。

(委員) 4年5年で作ったらどうかという話が保護者の中でありました。3年4年の複式のメンバーが4年5年となればまた同じメンバーでスムーズに回るのではないかという話をしていたのですが、5年と6年が複式になると説明を受けました。6年というのは担任の先生も負担が大きくまた卒業を迎えることから、そこはどうなのでしょうと保護者からの意見が多かったことは事実です。

校長の話だと、1・2年でワンセット3・4年でワンセット5年6年でワンセット。これがなぜそういう形なのかというと、やはり教えやすい。1・2年、3・4年、5・6年で大体似たようなことを教えており、4年と5年ではステージが変わってしまう。それは避けたいという話が保護者会の中でもあり、保護者が納得した部分です。

実際運用面で見ると、やはりそれがスムーズだと私は保護者として捉えています。

(教育長) 設定は各学校判断でいいはずなのですが、学習指導要領の内容等では、教科の構成が1・2年でセットなのです。生活科は1年生と2年生だけです。3年生以上は生活科がなく、3年生から理科と社会が始まりますので、そういった意味では2・3を複式にすると、生活科はある理科はある社会があるでとても大変なことになってくると思います。それから外国語活動が3・4年生、教科の外国語が5・6年生が始まります。3・4年生は教科としてではなく活動というかたちの位置付けで教科の構成が違うので、5・6年がセットの方が運用はしやすいだろうという観点だと思います。

(委員長) 2学年合わせて16人以下だと複式ということになっていますので、2・3年生の場合もあり得るということです。それしか教員配置がこないのが、極端な話ですが、2年生は生活をしながら3年生は理科か社会をやるといような、時間割上はそうせざるをえないわけです。

2学年合わせて教えるというように学習指導要領には書かれていますので、低学年、中学年、高学年の組み合わせになっているところからいっても教えやすさから、どちらでもとれる場合に、5・6年生の組み合わせにしたという形です。

(委員) 実際そういうところは経験されてますか。

- (委 員) いいえ。
 学校事情で学級編制の願いの際に、複式学級教科指導のために他の学年と組むという願いを出してはいます。ただその相手の学年の（人数が）極端に多く適正30人を超えてしまっていたらそれはできなくなります。まず現実的にそういったことはないの、1年生と6年生しか子供がいない学校であれば、1人の担任で行っていると思います。
- (委 員) ありがとうございます。
- (事 務 局) 引き続き場合が16人で、飛び学級となる場合もあります。
- (委 員) 4年生が全くいない場合にはそこで複式。そういうところも実際ありますよね。
- (事 務 局) 3年生と5年生合わせて8人など。
- (委 員) 飛び級の複式があるのは、先生としてはかなり大変ではないのですか。1人で見ることになりますね。あと6時間の方が1人つくのですか。3年5年、人数にもよると思いますが、ややこしくなるのでそれは避けたいと思います。
- (事 務 局) 4年生がいないということはすでに5学年しかいないですし、3年生と5年生が複式になるということは4学年しかないの、先ほど申し上げた6学級に満たないので人はつきません。
- (委 員) 例えば4年生がゼロになるところは、もう統合前提で考えないと児童が可哀そうだと感じます。通学の送り迎えよりも、クラスを無くさない。ここがやはり前提だと思います。複式はあったとしてもクラスを無くさない。無くさないための学校の数の在り方。これを前向きに検討するところではないかと思います。判断1つ材料の1つになりました。ありがとうございます。
- (委 員) 現実に令和12年度伊米ヶ崎小学校で、生活をしながら理科社会という状況がまさに起きるようなのですが大変ではないですか。
- (事 務 局) 例えば、算数は1年生では週4時間ですが、2年生以上では週5時間となります。国語は1年生では週9時間ですが、だんだん減ってきます。様々な教科で1週間の時数が合わなくなってくるので、特に2年生と3年生、4年生と5年生というのは非常にやりにくい組み合わせになります。
- (委 員) 今はない入広瀬小学校を子供が卒業して、次男が6年生のときは6年生が5人、3年生が3人、1年生が1人でした。当然飛び飛びの学年だったので、多分いろいろなことを考慮してもらい、先生たちが学年に1人、確かついてくれていたと思います。この先のことを考えると、複式は子供の負担もあると思うのですけれど、先生たちもすごく大変ではないのかと思います。
 もう人数が少なすぎて、体育は1年生3年生6年生全部一緒、音楽も全部一緒。次男は個別対応をお願いしてたのですが、ありとあらゆることをさせてもらいました。現場では先生方はすごく頑張ってくださって、おかげさまでよかったとは思いますが、この先人数が少なくなってくるのは目に見えているので、保護者や地域の方にも今の状態を浸透させていかないと、適正規模だけではなく今後魚沼の教育をどうしていくのかという行き先を決めるのは、すごく難しいのではないかと思います。
- (委 員) 小出小学校で運動会がありました。生徒の人数が多い分負けたチームは大泣きする様な盛り上がった運動会でした。運動会を見て、地域の方と一緒に盛り上げるという方法もあるとは思いますが、大人数の子供同士で盛り上がっていく楽しさもあるのではないかと感じました。
- (委 員) 冒頭の話に戻りますが、10年後に新しい学校ができて、魚沼市の人口はさらに減って行ってしまいます。
 広い人口をやがてコンパクトに集約するというような立地適正化計画が国で定められています。やがて人口減少を見据えたなかでコンパクトなシティを目指すというもので、いつまでに目指しなさいということは書かれていなくても、徐々にそういった動きというのは出つつあるのかと思います。そうすると、統合するにしてもどうしても中心地になってしまうのかと思っています。

- (委 員) 本筋からずれるとは思いますが。
複式や統合の可能性というところですが、例えばですが、水の里に大きい工場ができることによって、浦佐バイパス付近にアパートや住宅地ができて、伊米ヶ崎小学校の児童が増えるのではないかとというビジョンもあります。実際の工場を誘致をされていると思いますが、そういった可能性はどうなのでしょうか。
- (局 長) 残ってる区画が1つぐらいかとは思いますが、そういった可能性はゼロではないと思います。今現在全く読めない部分ではありますので、そういったことをどこまで考慮するかは、別に考えないといけないと思います。正直、何とも言えない思っているところです。市としては今空いてる区画は一生懸命誘致していますので、そういった可能性が無いというわけではないかと思っています。
- (委 員) このまま年度が進んでいくと、どんどん厳しい傾向が重なってくるかと思います。飛び複式の可能性が場所によっては出てくると思います。やはり今日の話を聞いてもできる限り複式は避けたいと思っています。小学校の間ぐらいは地元において欲しいという気持ちがあります。
- (教 育 長) 答申をいただいたうえで方針を出した後は、地域の皆さんと一緒に考えながら進めていきたいと思っています。
複式は避けたほうがいいのかという意見が多いのではと思いました。小学生のうちは地域で過ごすことが大事なので、複式は避けたいが1学年1学級規模はいいのではないかと判断になるのか、或いは、学級編成替えができるように1学年2クラスぐらいを目指したほうがいいのか等、ご意見があったらぜひお聞かせいただきたいと思っています。
- (委 員) 複式は避ける形で、単クラスは確保して欲しいというところです。ただ、その話をした中で、10年後の話をしているのか20年後の話をしているのか、その話になってくるので、どこまで先を見た中で焦点を当てて学校を設定するのか。10年後を見据えた形で設定した瞬間にはもう減っていくので、また同じような議論になって堂々めぐりになってしまう。そこを含めた中でももう少し先を見据えた形で議論をして欲しいというところです。
私は、複式は避けて欲しいと思います。複式でも今、宇賀地は保護者がまともっていますが、複式を避けて最低一学年一学級とすると、また20年後どうなのかという問題も上がってくるので、そこは皆さんがどう考えるのかご意見いただきたいというところです。
- (委 員) 今の話と同じ意見です。複式は避けたほうが良いと思います。10年後20年後にまたどんどん減っていく中で同じような話をしていくのはもったいない気がします。私の希望としては、小学校も盛り上がり等含めて単学級より2学級あったほうが良いと思いました。
やはり地域の皆さんが反対したりうまくまとまらないような気がするのです。地域が違う場所との統合は、かつて入広瀬と須原が一緒になったときのように、地域の反対の方も出てくるのだと思うので、ここで大規模な統合を目指したほうが、付け焼刃にならないと思います。
- (委 員) 私も須原地区なのですが、今日複式学級ということが知れてよかったです。複式学級にしても、子供の人数は結局は変わらないのだと思いました。これから増えるということも望みは少ないですし、減っていくのはもう確実なのだと思います。複式学級は様々な弊害や課題があるのだと思いました。なので、統合がベストだと思います。それがゴールだと思っています。
先生方の兼務で負担や過労等で教員の確保ができないということになれば、本末転倒でもあります。この少人数だと行事も成り立たないし、地域との関わり合いというのも希薄になるかと思っています。地域の方も無関心が出てくるのではないかとというのが現状だと思います。なので、親も子も「育む」ために早急に統合するのがいいかと思っています。

- (委 員) 1校にまとめてここに地図広げて、(位置を) どこにしようか等そんな風に
つ づ き ゴールを決めて、その後バスはどうしようかという様に決めていった方がいい
のではないかと思います。保護者や地域の人たちが求めているのが決定事項だ
と思うのです。最近はボトムアップと言われ様々な意見を出してほしいと言われ
ますが、意外と求められているのは、トップダウンだと思います。統合をゴ
ールにして皆さんで話を進めていく方がいいのではないかと感じました。中学校
の統合の話と同じ様な思いです。
- (委 員) 中学校の視点からになってしまうのですが、部活を地域移行する視点からも
考えると、いっそのこと統合して小学生のうちからみんなと交流を深めてその
まま中学校に持ち上がった方が子供たちにとってメリットが大きいと思いま
す。小学校から交流を深めた方がいいのではないかと思います。
- (委 員) 中学校1校、小学校でも1校という話ですか。
- (委 員) 1校ということではないのです。
- (委 員) 中学校1校小学校1校ならば小中一貫校で1校でいいのではないかと思います。
それから通学の足がですが、中学校だと1校、例えば小学校が3校あれば、保護
者が大変だと思います。スクールバスのルート等も変わってきます。だから小
中一貫校1つでいいのではないかと思います。魚沼は地域の繋がりが強いので、
ここに作ってここに作らないとなると揉める話になるかと思っています。なので、
小中一貫校でインフラ整備が残る街中に1つ造る、それが一番メリットだと思いま
す。学校1校作るのに10何億のお金がかかるので、2つ3つ作ってしまうと36億
とか48億とか、そのような感じになってしまうので、小中一貫校という形の方
がいいのではないかと思います。
- (委 員) 私は広神東小の地区なのですが、ほぼ同意見です。小中一貫校であれば、地
域の人の反発も少ないのではと思います。行事も大人数になりいろいろなこと
ができたり学年行事にしても、保護者からもたくさん出てもらえて盛り上がる
のではないかと思います。この先20年30年後のことも考えるのであれば、大き
く小中一貫校で作ってみるといったのも有りだと思います。
- (委 員) 小中一貫校となった場合、5年後ですら千人を超える規模になります。自分の
子どもが(地域に)居なくなれば無関心になるのではないかと思います。皆
さんいかがでしょうか。
- (委 員) いきなり8校を1校という気持ちはないです。
4年生が全く居ないところは、先生の負担がすごく大きいと思います。3年5年
でひとクラスという状況になれば、統合するしかないと思います。これは住民
説明がしやすいと思います。統合というワンクッション置いた中で最終的に小
中一貫校という形に持っていければいいと思っております。確かに千人は大き
いですけど、増えることはありません。
- (委 員 長) その他いかがでございましょうか。
長岡の東中学校が2010年開校したときで、確か25億ぐらいかけて作ったとい
う話です。中学校1校作るのに同じレベルのものを作るとなると、それぐらいか
かるのだろーと思います。
小、中合わせて千人ぐらいとなると、開校時の三条の嵐南小学校、第1中学校
がそれぐらいです。3つの小学校を統合して嵐南小学校を作って第1中学校と併
設して県立三条高校の跡地に建てた県内の一番大きな小中一貫校でしたが、
(千人規模の)校舎を作るとなれば、三条高校の跡地に建てた校舎ぐらいの大
きさが必要になるというイメージになるかと思っています。
- (教 育 長) 中学校の場合は教科担任制の問題があり、ある程度の規模がないと全教科の
教職員が揃わないので1校というお話だったのですが、今のお話の中で令和7年
段階の子供の数を見て、今後の魚沼市の小中学校の教育環境をどうするかと
いったときに、10年、20年後もっと人数が減っているのかもしれないので
すが、今回の答申の段階で小中一貫で1校にしようというところまでいくと、少し
進み過ぎではないかというのが、今の話をお聞きしての思いです。

(教 育 長)
つ づ き 令和12年のデータを出しているのは、確実に読める数がここまでということです。令和6年度の出生が107人になっていますので、今後さらに減っていくのでしょうが極論的に、小中義務教育学校で一貫校にして市内1校ではないかというご意見でした。

今回の令和7年段階のこういった状況の中で、小学校を1つにしてしまうのは、冒険すぎるのではないのかという気がします。子供たちの教育環境を考えたとき、はるか先を見るとそういった形にせざるをえない状況が生まれてくるのかもしれませんが。

地域で育んできたというこれまでの取り組み等を踏まえたうえで、複式は避けたいのでどうしても統合という形はせざるをえないかもしれないのですが、市内全部を1つにしてしまえばいいというところまで進むのは、これまでの取り組み等を踏まえたときいかがなものかという思いがあります。

(委 員 長) 小学生は体力的にも1校では厳しいのではないかと話されていたと思います。スクールバスが小・中一緒に乗ると人数が多くなり過ぎてパンクしてしまうかもしれないということと、朝は一緒にいいが帰りは時間体が全く違うという問題も出てくるので、中学校を先行して1校にして、そこでスクールバスを走らせてみて、これに果たして小学生が耐えられるのかという実験的なことはできるかと思います。その検証を見てからでも間に合うのではないかと思います。

(委 員) 財政的には、小中一貫校でも小学校単独でも中学校単独でも結局似たような金額になるかと思います。

学校を作れば耐震80年もつという設計でされていますので、また人数が減り過ぎて空いたクラスがたくさん出てきてしまうと、運用面でどうなのかと思います。それから、当然小学生は中学校に上がるので、子供の送り迎えはスクールバスだけではなく、親がすることもあるかと思います。

学校1つ24億円とすれば48億かける財政力が市にあるのか、当然補助金をもらったとしても、自己負担が掛ける2になりますので、小中一貫は行き過ぎだと思いますが、魚沼市の財政も見えていかななくてはならないと思っております。

(委 員) 統合は早めに進めなくてはいけないような気がします。地域の方の説明もありますので。やはり複式は避けた方がいいと思っています。複式の子と1学級ずつ指導を受けた子というのは、差が出てくるのではないかと思いますのでその点も心配です。少人数の良さもあるとは思いますが、盛り上がるといった経験も大事だと思うので、1学年2学級は作った方がいいと思います。

学校は、(築年数が)新しい学校に統合するようにしていけば、建物を少し改善すれば長く使えると思うので、まず一貫校の手前として4校ぐらいに絞るといった形で進めていく方がいいのではないかと思います。施設の状況も見ても、そういったことも検討していくのがいいのではないかと思います。

(事 務 局) 学力面で言えば、小規模校の方が高いと思うのです。なぜならば、担任1人1人では手をかけるその熱量が違う。30人を1人で見ると15人を1人で見るとは明らかに違います。私は小学校のときに複式学級を経験してのですが、やはり上の学年の勉強をちらちらと見ながらやったりできますし、実際自分も教頭になってから複式の学校を経験しているので、担任は大変だとは言いますが、実は加配がついたり、管理職が反対の方の授業見るので、国語と算数に関しては単独で授業ができるのです。

社会は社会だけやれば先生、教頭が社会を全部持つとか、体育はこの先生が全部持つとか、そんなふうによれば、私の経験した学校では先生方の負担はそんなになかったです。子供たちもいい子でしたし学力も高かったです。地域との関わりが密接になっていくので行事も地域の方が参加してくださって、学校単独ではあんまり盛り上がりませんが、地域と協力して地域の方が盛り上げてくれたような感じになったので、今の話の流れに逆行しているようで申し訳ないのですが、決して学力としては大きい学校がいいというわけではないというのが私の経験からの話です。

(委 員) この資料を見てどうでしょうか。1校にするというのは、なかなかハードルが高いですし、本当に冒険だと思います。こうしてみると、須原小学校に広神西小に広神東小、令和12年度この3つが1つに統合する。皆さんや保護者の方々も薄々思っていることだと思うのです。

(委 員) 須原小・広神西小・広神東小が1つになる。これを見ると湯之谷小は198名なので、200名前後なのでそのまま。小出小と伊米ヶ崎先は小出小学校に統合する。宇賀地小は堀之内に統合する。これは大体の人たちがもう予想していることで、一番問題なのが、須原小・広神西小・東小なのだと思います。どこにするかが一番の問題だと思うのです。

少人数で手厚い指導を受けると頭はすごくよくなるかと思います。私は、学力は勉強だけではないものだと思います。

10年後20年後、2045年に教室は多分存在してないと思います。20年後はもうどこでも勉強できていると思います。Zoom等でどこでも人と話せる、そんな時代がもう今なので、20年後はもう想像できないことになっていると思います。20年後は、今話題になっている「今の」小学校中学校の子供たちが考える場になるのでは。おそらく35歳、40歳前ぐらいの。その子達からよく考えてもらえればいいと思います。ですから、最初はやはりこの3校4校ぐらいの統合で進めていくということで、何か統一意見を1つ出してその方向で進んでいく方が話が早いのではないかなと思います。

(委 員) 例えば20年30年すると、おそらく物質的な学校ではなく、リモート化等形が変わってくると思います。20年後に学校ができてそこから80年、おそらく財政に対しての負担にしかなくなるのではないかなという気がします。

魚沼市の通学の物理的な問題は一番最後まで残ると思うので、オンラインを考えたほうがいいのではないかなと思います。その前段として、湯之谷は統合して旧湯之谷村で1校になりました。そうすると今申し上げたような小出・伊米ヶ崎、堀之内・宇賀地、広神東・西と須原というのは区分け上、皆さん頭の中にもうっすらある須原・広神西・広神東なのか、須原・広神西と広神東・湯之谷なのかという組み合わせぐらいの問題で、今こうして人数を見てしまうと、やはり東・西・須原かなという人数配分でいけば、ビジョンが浮かんできたような気がするのですが、一か八かという話になるよりも、ステップを踏んでいった方がいいのではないかなという気がします。

(委 員) 当初は複式は避けたいということから、その中でいくつかの複式の統合や、複式を避けるだけではなくもう少しまとめた方がよいのではないかなといった提案がなされたということですのでよろしいでしょうか。本日はここまでとしてよろしいでしょうか。皆様ご意見よろしいでしょうか。

それでは委員の皆様からのご意見を事務局でまとめて答申案を作成するというところでございます。以上で議事を終了いたします。

日程第5 その他

(委 員 長) 次第の「その他」でございます。

事務局から今後の予定についてお願いいたします。

(事 務 局) 様々な意見が出て、最初と最後ではかなり話の内容も変わってきたりして、小学校は難しいと改めて感じました。複式は避けるというご意見、ステップを踏みながらというご意見をいただきましたので次回に反映させていただきたいと思います。次回からはこれまでの検討内容、ご意見等をもとに答申の案たたき台等を、委員さんから修正をしていただきながら進めていければと考えております。本日が5回目です。当初8回で答申の予定ですので、そろそろまとめに入らせていただきます。資料は、早めにお送りしたいと思いますので、事前にご確認をいただいて当日ご意見等をいただければと思います。

日程第6 閉会宣言

(委 員 長) 以上で第5回魚沼市小中学校の教育環境の在り方検討委員会を閉会といたします。

ありがとうございました。